

# 高校生との意見交換会懇談概要

## 農産物のブランド力を高めるには

**生徒** 安曇野には、リンゴやワサビなどの特産品がありますが、農産物のどんな点を売り出したいかわかりづらいつ感じます。そのような情報をまずは市民含めて全体に広がるような活動をすれば、ブランド力を高められると思います。

**市** 市の農産物は、風光明媚な景観や洗練された安曇野のイメージと結び付けてブランド化されていることが多いといえます。また、ブランド化という点においても、安曇野ならではの土産を作る必要性を感じています。ぜひ、皆さんからもご提案をいただければと思います。

**生徒** 特定の農産物を売り込むだけでなく、地域食材を生かした商品開発として、安曇野産の農産物を使ったレシピを募れば、市民全体にブランドづくりを広めることにつながると思います。また、話題も提供できるのではないかと思います。

## 農業後継者の確保・育成

**生徒** 農業に親しんでもらうため、小さな頃の体験が大切だと思います。南農では、堀金小学校と連携して、農業の授業をしています。同じような取り組みが他校でもしたらどうかと思います。

**市** 体験で学んだものは年を取っても忘れないものだと思います。農業を学ぶことで、仲間を大切にすること、愛情を注ぐことを学ぶなどの波及効果もあると思います。すでに多くの小学校では農業体験に取り組んでいますが、教育効果を検証しながら、小中学校全校で取り組んで良いと思います。

**生徒** 学校開放講座でも農業の楽しさを伝える取り組みをしています。ただ、楽しさを伝えるだけでは不十分で、大変さも伝えられたらと思います。農業の実態を地域に伝えられなければ、農業後継者の確保につながらないと思います。

**市** 実際に農業を経験している人が少なくなり、農業の理解も得られない状況です。多くの皆さんに農業を体験していただく大変意義ある取り組みだと思います。市としてお手伝いできることがあれば相談いただきたいです。

## CSF(豚コレラ)対策

**生徒** 安曇野は観光客も多いので、CSF(豚コレラ)や鳥インフルエンザが入ってくることが心配です。人が多く集まる場所に消毒を置いたらどうでしょう。

**市** すべての施設で消毒というのは難しい部分もありますが、できる限りの対策を講じていきます。また、生徒の皆さんが高校の正門に石灰を撒いてくれたことは、緊急性があることを市民に広く知っていただくことにつながりました。

# 高校生と語る 未来の安曇野

## ふれあいミーティング in 南安曇農業高校

昨年2月の穂高商業高校での開催に続き、市長と語る「ふれあいミーティング」を南安曇農業高校で開催しました。☎秘書広報課 ☎71・2400 ☎71・5000

### 長野県南安曇農業高等学校

大正9年に県立甲種農学校として開校。開校時より、質実剛健・地域の先達・世界に飛躍という3つの教育指針を掲げる。グリーンサイエンス科・生物工学科・環境クリエイト科に323名が在籍。平成27年に市と農業分野における相互発展のための連携協定を締結した。来年は創立100周年を迎える。



## 市の農業振興 確かな食でつながる 水とおひさまの郷

今回の意見交換会では「農業振興」を中心としたテーマを設けさせていただきました。市は、体験や観光を取り入れた農業を推進するため、農家民宿に取り組んでいます。参加した生徒は、4,700人を超え、年々増加傾向にあるなど、一定の成果を上げることができました。また、荒廃農地の解消の取り組みとして、明科地域の農業を守る会を中心に地域と行政が一丸となり、明科天王原の荒廃農地10ヘクタールをワイン用のブドウ畑として再生しました。そのほか、新規就農者確保の一環として、首都圏で「農のある暮らし」の魅力を伝える取り組みや、ワサビや日本酒などの安曇野ブランドを海外に広める仕組みづくりにも取り組んでいます。

今後も各部局が連携しながら、さらなる農業振興策を講じてまいります。

安曇野市長 宮澤宗弘



地域一丸となって取り組んだ天王原の農地再生。南安曇農業高校の皆さんも作業に参加しました。

### 農業振興などを語り合う

**市** 市長が、市民や地元の高中生と直接対話をし、まちづくりを共に考える「市民と市長のふれあいミーティング」を11月15日に南安曇農業高校で開催しました。市からは市長、教育長らが参加。高校からは生徒会役員や農業クラブ役員など14人が参加しました。安曇野市の農業振興や災害対策のほか、高校と地域との関わりなどについて意見交換しました。

### 南農まるしえ

### (東京販売実習)の成果発表

この日は、まず、市との連携事業として取り組む販売実習「南農まるしえ」の報告が行われました。本年度の南農まるしえは9月15日、東京都の東急百貨店吉祥寺店で行われ、安曇野産の農産物や生徒たちが手掛けた加工品を自らPRしながら販売しました。発表では、「都会は地元比べて若い人が多いせいか、アピールしないとどんだん人が通りすぎてしまう」、「信州安曇野」というと理解してくれる人が多く、ブランドづくりの大切さを学んだ」といった意見が出されました。